**下平淑子さん**　主人が、首の手術をした事で障害者の3級になった。その後、脳梗塞を患い半身が不自由な状態になった。今は介護を受けながら月水金はデイ・サービス行っている。私はその間、色々な所で働き体をこわしたり、交通事故にもあったので、月水金の朝はリハビリに通っている。午後は夫が帰ってくるので世話をしています。長女は今貿易の会社を営んでおり、非常に忙しくしていて、次女はこの会社の会計を担当している。日本に来たとき、私たち夫婦2人は肉の加工工場に勤め、当初は正社員として採用されたが、阪神大震災があった時に全員が社会保険をはずされてしまい、その為に年金が少なく生活が出来ず、今は生活保護を受けている。

## 自分の人生を振り返って、今どう思うか、夢とか希望など

**大橋さん**　2世としての希望ということで。先程も話させて頂きましたが、今の仕事は天職だなと思っていて、毎日仕事が楽しい。残りの人生がこれまで通りに出来てこのまま生きて生きたいと思っている。

あと一点、両親のこれから先を考えると、やはり、私の精神的な安定が大事だと思う。ひたすらこの立場を精いっぱいやって行くことかと思う。

**下平淑子さん**　私にはいま非常に切実な問題がある。2階建てアパートの2階に住んでいる。主人の体が不自由なために階段の上り下りが大変。昨年ちょっと目を離した隙に主人がこけてしまい、腕の怪我が長い間治らなかった。今一番願っているのは、安心できる住宅に、どういう場所でもいいから応募ができ、当たる事だ。

**石井さん**　僕の場合は年金生活だから、一番怖いのは病気になること。これから高齢になっていくので、自分で健康に注意しないとダメだと思っている。日本国民として生きていきたい。

**下平鳳子さん**　今年は病気になって、介護の仕事が十分にできなかった。まだ介護の仕事はしたいから、これからまた頑張ろうと思っている。

**山崎さん**　私はこれまで3世の人たちの話を聞いてきたけれど、3世がおじいちゃんやおばあちゃんの話を聞こうと思った時には、もう話を聞けなかったとか、もっと早く聞けばよかったと言っている。親は、家族やプライベートなことを話したがらない。3世の当事者の家庭でも、話ができていない事を思うと、社会からも忘れ去られると思うので、そういうことに向かって自分でも何かやりたいなと思っている。

**宗景正**　言葉、コミュニケーションの問題をすごく痛感した。これから1世、2世の方たちが年をとってくると、その中で起こる様々な問題が私たちの想像以上にあると思った。現在、病院に通院するとき、1世の方には自立支援通訳が付くが、2世の場合、支援があるのは同伴帰国した家族だけ。通訳のつかない家族はどうするのか。医者と話せる家族の人は一部で、その人が働いている場合は、いつでも病院に同行できるとは限らない。そんな問題がある。それと介護の問題がその先にある。また入院したらどうなるのか。日本語が話せる人でも孤独で、不安な病院生活、そんな状態がやって来るだろうと思う。そのような中で私たちが出来ることは何なのかなと考えてしまう。今日の話で皆さんが日本語を話せることの大切さや、日本語教室に大事な役割があることを述べていただいた。また、教室が地域の皆さんとつながっていける場所でもあると改めて思った。しかし、この教室への参加に国の支援があるのは1世の人たちだけ。1世の人たちが私たちの教室に参加できなくなったら、この日本語教室は国の委託事業から外されるかもしれない。そうなった時に日本語のできない2世はどうするかと思う。このことを地域の皆さんや行政関係者とも話していきたい。日本語の学習支援は中国残留日本人の問題だけではなくて、これから日本に来る日本語の話せない外国人の問題でもあると思う。このようなことに対し、やはり私たちは声を挙げていかなければと思うし、ご参加いただいた皆さんにも協力していただけたらと思う。

になって、入院し、大変心を痛めた。日本に来て、最初は保証人になってくれた工場で5年間程勤めたが、事情があって印刷工場で働くことになり、13年程勤めた。その間、色々あったが、長女が大学進学、次女が高校進学。それでお金がかなりかかるようになり、昼間は工場で、夜はパン屋さんの製造工場で働き、かなりしんどかったけど、子どもの為に一生懸命頑張った。

**大橋さん**　その当時の苦労したことをあまり話したことが無いので今回の下平さんや石井さんのお話を伺っていると、まあ贅沢な悩みだったなと、周りの人たちの悩みなど見えていなかった。父は言葉もわからず、仕事はアルバイト。給料が少ないし、両親共に内職の仕事をもらってきていた。

**山崎さん**　2世の父は工場にずっと務めていた。朝、私が起きたらいなくて、寝たあとに帰っていた。当時、家でも内職をしていた。すごく狭い家で、お金がなく、ワンルームのような部屋で3人で生活をしていた。部屋は内職の段ボールが占めていた。やっていたのはビニール傘のゴチッと押すやつ、あれを柄に入れるのをやっていた。その押すところの部品が山盛りになってて、僕はそれを見てすごく楽しかった。物がない家だったんで、そのキラキラした部品を見てすごく楽しく思った。父は仕事から帰ってきてからも手伝い、働きづめだった。私が大人になってそれが内職だったんだなと分かってからは今もビニール傘を見ると複雑な気持ちなってしまう。両親が言葉もわからないまま日本に来て育て上げてくれたと思うと、みなさんのお話を伺って、2世の方々も大変な苦労をされてきたんだなと改めて思った。

**下平淑子さん**　私が日本に来た時には、伊丹にユネスコ日本語教室というのがあり、しばらく通った。それから工場に勤めたが、現場に中国語を話せる人がおらず、困った。その後、交通事故に遭い、仕事が出来なくなった。その時、夜間中学に半年以上通った。その当時、夫が首の手術をしなければならなくなり、勉強ができなくなった。

主人は肉の加工工場にずっと勤めていた。工場では日本語を使う必要がなく、全く日本語を喋れない。だから今でもなにかあった時には、私が連れて行かないと事が進まない。今は尼崎の日本語教室に毎週火曜日に通って、動詞の使い方などを習っている。

**下平鳳子さん**　夫はいま工場で働いているが、日本語はダメです。だからいつも中国語で喋っている。子どもは日本語だけしか話せず聞くだけ、中国語は話せない。子どもと夫の間に立って私が通訳をしながら家の中の会話が成り立っている。

**山崎さん**　うちは母が日本語を結構しゃべれるけど、父はほとんどしゃべれない。今後父を介護するときに、どこまで親子間の気持ちが通じるか。私は自分の父親に対して、「どのように介護をすればいいんだろう」とすごく不安。今まであまり深いコミュニケーションを父と取れていないのでどういう人かわからない。この人はどういう人生だったんだろうかというのが未だにわからない。この先もこれより深く父を理解することはないのだろうなと思うと少し心理的な距離がある。それは今後介護というときになったらまたどう展開していくのかなと思う。父親なのに父親のことが何もわからないというのはちょっと寂しい気持ちがある。

## 今現在の楽しみ、伝えたいことはありますか？

**下平鳳子さん**　子供が二人共東京で、主人が寂しすぎて話し相手は私だけ。私は介護の仕事を続けている。施設では私の支援を受けたいと言ってくれる人もいる。

**石井さん**　今は週1回、2時間勉強しているがなかなか日本語を覚えられない。1週間に2、3回勉強したら良いと思う。国交回復50年のいま中国の中には日本語学校が数えきれないほどある。日本に残留孤児の日本語学校は1つもない。それは政府が責任を放棄した問題だと思う。残留孤児が日本語を勉強できるようにしてほしい。僕は楽しい、楽しくないはともかく、年金生活者だからいつも火曜日に夜1人でにカラオケに行く。皆でカラオケして飲んでるときが一番楽しい。